

【ダイコン白さび病】



葉の表(黄色い斑点)



葉の裏(白い斑点)

アブラナ科野菜で広く発生しコマツナ、大阪シロナ、カラシナなどの葉菜ではもう少し朝の冷え込みが強くなると葉上に夜露ができるのでよく見かけます。

春や秋の降雨後に空気感染でパッと発生することがあります。窒素肥料のやり過ぎも発生を助長します。

シロサビ病菌は絶対寄生菌で、植物体上でないと生存できませんので、菌の付着している葉面を薬剤で菌を洗い流すように丁寧に散布します。

多湿が発生の一因ですので、風通しを良くすることは蔓延防止に効果があります。

また、被害葉や被害株はほ場外へ持ち出して廃棄処分します。

<登録薬剤>

- ・ランマンフロアブル : 収穫前3日までに散布
- ・ダコニール 1000 : 収穫前 45 日までに散布

注意！

アブラナ科の根こぶ病！！



世界的に難防除病害となっています。

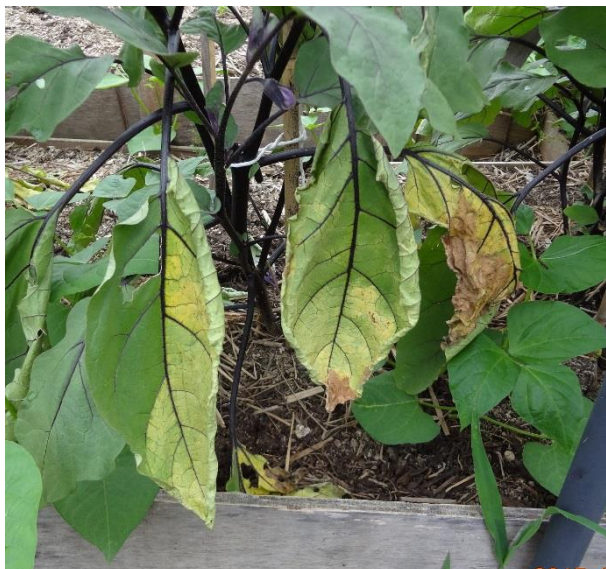
病原菌はカビ。

休眠型の胞子は土中で 10 年近く生存します。ダイコン以外のアブラナ科野菜でひろく被害が発生します。

【対策】

- 1) 根は持ち出して廃棄し、絶対にすき込まない**
- 2) 土は乾燥気味で管理する（土が湿っていると胞子が発芽して病気が蔓延しやすい）**
- 3) 石灰資材を多い目に施用して土壌 pH を 6.5 以上とする。**
- 4) ハクサイやブロッコリでは健全な土を使って育苗した苗を植え付ける。汚染土を健全土と混ぜて育苗土とすることはしない。**
- 5) アブラナ科の連作はしない。**

◆萎凋（いちょう）病



症 状	カビによる病害です。 初期 茎の先端が萎れる。 ⇒下の葉から上へ黄色く変色し、最後は全体が萎れる。
かかりやすい野菜	イチゴ、ゴボウ、ゴマ、ネギ、トマト、ミニトマト、ホウレンソウなど。
治療法	なし
防除方法	土壌伝染性病害のため、土ごと排除します。 スコップで「土」と「根」ごと掘り起こし、土ごと袋に入れて廃棄してください。 絶対に引き抜かないこと。 ※引き抜くと根が残り病原菌も土中に残ります。 ※数年同じ科の野菜を同じ場所に植えない。

◆うどんこ病



症 状	カビによる病害です。 白い斑点 ⇒ 葉全体が白くなります 光合成が出来なくなり発育不良をおこす。 放っておくとどんどん被害が広がる
かかりやすい野菜	キュウリ、トマト、カボチャ、イチゴなど
防除方法	<初期> 症状が出た葉っぱだけをちぎって様子を見ます。白い胞子で感染しますので、除去した葉は密封して持ち帰り自宅で廃棄してください。 <症状が広がる場合> 出来るだけ早いうちに市販の殺菌剤、または重曹（特定農薬）を 1000 倍希釈し噴霧します。 ※真夏には一旦自然治癒しますが、秋に再発します。

◆モザイク病



症 状	ウイルスによる病害です。 葉が緑色と淡黄色の濃淡のモザイク状になります。 ひどい場合は株全体が委縮します。
かかりやすい野菜	ほとんどの野菜に発生します
感染原因	主に保毒したアブラムシによって感染する
治療法	なし
防除方法	根っこから抜き袋に入れて廃棄します。 アブラムシ対策を徹底する！ 感染の主因であるアブラムシを防除しないと、感染を防ぐことが出来ません。 土壌伝染性病害ではないので土はそのまま使用できます。